

自分自身の未来に期待する子どもの育成

～個の願いを真摯に受け止め支援・実践する活動を通して～

平石友吏江

金沢大学大学院教職実践研究科 学習デザインコース

【概要】本研究では、なりたい自分を明確に持ち日々の生活の中で自ら考え決断し、よりよい行動ができるようになるための支援の在り方を探ることを目的とした。そのための手立てとして、個人面談や他者との交流を通じた自己アセスメントを継続して行った。個人面談では、個の願いや思いを共感的に受け止めることを徹底して行うことをしてきた。また、子ども同士の交流の中でも個の願いや思いを受け止めることを意識させてきた。さらに、自分の成長を絵に表したり、文章に表したりすることで自分や仲間の成長に気づかせる学習もあわせて行った。その結果子どもたちは、自己効力感を高め、なりたい自分をもつことができるようになっていった。

I はじめに

児童が自分自身の長所に気づき、他者と学び合いながら自らの強みを生かして、小学校生活を送ってほしいと私は考えている。

しかし、自分に自信がなく、困難で難しそうな課題に対し、消極的な児童も見られる。また、授業でも自分の考えを表現することが苦手な子どもも見られる。

令和元年度全国学力状況調査質問紙回答結果集計を見ると、「将来の夢や目標を持っている」「物事をやり遂げてうれしかったことがある」という質問に対し「当てはまる」と答えた児童の割合が全国平均65.9%、79.5%だった。それに比べ、「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」という項目に「当てはまる」と答えた児童の割合は30.3%と低かった。

日頃の児童の様子や質問紙の回答集計から私は、個々の児童が困難だと考えていることに対して十分な理解と支援がなされていないのではないかと考えた。個々の子どもの希望を後押しし、支援することができれば、子どもたちは、失敗しても挑戦しているという気持ちになるのではないかと考えている。そして、小学校でも、高学年であれば未来を見据え、自分の理想である「なりたい自分」を見つけて一日一日を前向きに生活して行ってほしいと考え

ている。

「なりたい自分」を明確に持つためには、日々の生活の中で挑戦する気持ちや努力する気持ちを持ち続けることが大切である。その気持ちを持ち続けるには困難な状況であっても、自分は対処できるという確信や自信といったイメージ(自己効力感)が持てるようになることが大切である。カナダのアルバーダ・バンデュラ(1997)は著書「激動社会の中の自己効力」で、「自己効力感を生み出す信念の源は大きく4つあり、1つ目は忍耐強い努力によって障害に打ち勝つ制御体験(成功経験)。2つ目は自分以外のうまくできている人をモデルとして観察することで自分たちにもできると思う代理体験。3つ目はある行動をするとき「できる・大丈夫」などと言われて本人が、その気になって努力し続けるようになる社会的説得。4つ目は、心身の健康・安全を維持するための生理的・感情的状態をコントロールすることである。」と述べている。本研究では、1つ目から3つ目の自己効力感を生み出す信念の考え方を参考に学校で具体的な取り組みをしていくこととする。

本研究では、児童が自分は対処できるという確信や自信といったイメージ(自己効力感)もち自分に

希望をもって生活できるよう、今の自分の現状を見つめ、なりたい自分に近づけるよう支援する方法を探っていきたい。

II 研究の目的

本研究では、なりたい自分を明確に持ち日々の生活の中で自ら考え決断し、よりよい行動ができるようになるための支援の在り方を探ることを目的とした。

III 研究方法

1. 対象

小学校6年生 単級 23名
(男子15名女子8名)

本報告では、特に変容の大きかったA児とB児を抽出し、その変容を具体的に記述していく。

2. 実践計画

教師が子どもの願いや思いを真摯に受け止める、対話の時間「個人面談」を行う。「道徳」「学級活動」「総合的な学習の時間」「行事」「図工」の時間を相互に関連付け、すべての活動において、子ども自身が自分を肯定的にとらえることができるよう交流の時間を確保する。そこでは、互いを認め合うことや理解し合うことを意識させる。そのことで、自分や仲間の成長に気づき、新たなチャレンジを試みようとする気持ちを養っていく。以下に概要を示す。

(1) 個の思いを共感的に理解し真摯に受け止める個人面談

個々の子どもの思いや願いを共感的に理解する姿勢で、子どもの話を聞き、子どもに寄り添いながら、支援の方向性を考える。ノートに子どもとの会話を適宜記録し、支援を考える上での資料とする。面談は長休み・昼休みに行う。

(2) 自己を肯定的に受け止め向上心をもつ道徳

A-1 希望・勇気・努力と強い意思「自分を変えるのは自分」(教育出版)「真海のチャレンジ-佐藤真海-」(文部科学省私たちの道徳) B-7 親切・思いやり「父の言葉」A-7 個性の伸長「山中伸弥先生の快挙」(教育出版)の授業を行い、日々の学校生活や自分自身との向き合い方との関連を図った授業を行う。

(3) 未来を考える総合的な学習の時間(ぼく私の未来)

自分の中にあるよさを自分自身で考えたり、身近な大人に聞いたりしたことをもとに、自分に適した職業調べを行う。自分が就きたい職業に就くためには、どんな資格が必要でどんなことが大切であるかを調べたり、あこがれの人に手紙を書いたりして自分の未来について考えていく授業を行う。

(4) 自己を表現する図工

自画像を描き、その周りに4月からの自分の成長を振り返りながら、どんな時にどんなことを学んだのかを描く。また、絵を通し自分自身の思いや大切にしたいことを文章に表現することも合わせて行う。

(5) 個性を生かし、全体をつなぐ行事(緑の生活体験・運動会⑧プロジェクト)

クラスメイトと共に一つの目標に向かって取り組んだことで、子どもたちが何を感じ、何を思ったかを交流する時間をとり、個と集団をつなげる時間を授業の中に取り入れる。

(6) 互いの良さを見つけるいい所見つけ

定期的に互いの良さを認め合い、自己肯定感を高める取り組みを日々の生活の中で行っていく。

(7) なりたい自分について考える学級活動

自分自身を知る活動(曼荼羅チャート)や学習の意味を考えるを通して「なりたい自分」に向かって目標を立てる授業を構想する。

表1 研究の実践について

| | | |
|----|-----------|-----------------------------------|
| 4月 | 定期的な活動 | ・自己を知る アンケート |
| | 学級活動 | ・自己を知る「自分自身を知ろう」 |
| | 道徳 | 「自分を変えるのは自分」 A-1 希望・勇気・努力と強い意思 |
| | 学級活動 | ・「勉強はなぜするのか」 |
| 5月 | 面談 | ・自己を知る個人面談 |
| | 行事 | ・連合運動会に向けて+振り返り |
| | 道徳 | ・「父の言葉」 B-7 親切・思いやり |
| 6月 | 定期的な活動 | ・いいところ見つけ |
| | 行事 | 「緑の生活体験+振り返り」 |
| | 道徳 | 「山中伸弥先生の快挙」 A-7 個性の伸長 |
| 7月 | 学級活動 | ・自己を知る「4・5・6月の自分を振り返る」 |
| | 総合的な学習の時間 | 「僕・私の未来」 ・自分の中にある宝物を探そう |



図1 研究の構想

| | | |
|-----|-----------|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の未来を考えよう ・自分らしさを生かした「職業調べ」 |
| 9月 | 行事 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校をきらり輝かせるぞ 運動会「一人一人が輝く場」 「秘プロジェクト」 |
| | 定期的な活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己を知る アンケート |
| | 定期的な活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・いいところ見つけ |
| 10月 | 面談 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己を知る個人面談 |
| | 図工 | <ul style="list-style-type: none"> ・自画像制作(絵にこめた思い) |
| 12月 | 道徳 | <ul style="list-style-type: none"> ・「真海のチャレンジャー佐藤真海」A-1 希望・勇気・努力と強い意思 |
| 1月 | 総合的な学習の時間 | <ul style="list-style-type: none"> 「僕・私の未来。」 ・あこがれの職業につくために必要なことを調べ新聞にする。 ・あこがれの人に「手紙を書こう」 |

3. 検証方法

授業の実施期間は平成31年4月～令和2年1月である。子どもの思いや考え、悩みを知るための個人面談、その子の通年の変化を見るポートフォリオ、個人の思いや考え方を見取るための作文、1学期初めから2学期後半にかけて自分自身をどのようにとらえているのかを見るためのアンケート、さらに、今の自分を見つめ成長をとらえると同時に、自分の未来についての思いを描いた自画像から、自己アセ

スメントという観点で子どもの変容を分析し検証する。

IV 実践結果と考察

クラス全体として表1にある様々な実践に取り組んできたが、ここでは、変容の大きかったA児とB児を取り上げその変容を述べることにする。また、実践を積み重ねていく際には自己効力感を生み出すために、自己の成長に気づくふり返りやクラスメイトとの交流を積み重ねた。各実践が児童にとってどんな変化を生みだすことになっていったのかを検証する。

1. A児の変容とその考察

(1) 4月アンケート

4月当初に自分自身をどのように感じているのかについてアンケートをとった。

A児は、「学校に満足している」「人に認められている」「最後までやり遂げたことがある」「人と協力するのは好きだ」「自分を励ましてくれる人がいる」「友達のよい所を自分に取り入れている」という項目に対しすべて当てはまらないと回答した。

逆に、当てはまると答えた項目は「夢や希望を持っている」「自分には夢がある」「失敗してもくじけないでチャレンジする」「学校以外にも頑張っていることがある」「何かをする時、自分で決める」という項目だった。

(考察)このアンケートから、A児の学校での孤独な

姿が読み取れた。その反面、学校以外では夢や希望を持ち、一人で何でもやり遂げていこうとする強い意志が感じられた。

(2) 学級活動「私ってこんな人」(4月)

自身が自分をどのようにとらえているのかを知るために、曼荼羅チャートを使い、好きな事や嫌いなものや心配事、将来の夢など自由に書き出す活動をした。あわせて、友達からのメッセージをもらう活動もした。

A児は、「私は色に例えると青と黄とピンクだ」と書いていた。理由としては、「弱い自分と明るい自分と幸せな自分があるから」ということだった。直したいところは「泣き虫な所やネガティブな所」で、心配事は「クラスでの人間関係」であるということも書いていた。

好きな事は服のコーディネートやダンス・メイクなどで、今はまっている事はコスメ集めという今どきの元気な女の子の姿も見えてきた。

友達からは「女子力が高い」「おしゃれ」「頑張れ」というようなコメントをもらっていた。

表2 学級活動「私ってこんな人」ふり返り

A児ふり返り

思ったよりたくさんの人にほめてもらえてうれしかった。〇〇さんが応援してくれて頑張ろうと思った。

(考察) 曼荼羅チャートの結果から自分らしく明るく元気に生活していきたいと願う自分がある反面、クラスの中での自分の安心できる居場所が十分ではないことが見て取れた。

(3) 学級活動(4月)「勉強はなぜするのか。」

新学期が始まって間もない頃、学習に意欲的になれない様子がクラスの中で見られたことをきっかけに、勉強をすることの意味を考える授業を行った。

授業の初めに、各教科についての勉強の大切さについてワークシートに書き出し意見交流を行った。

A児は、役に立つ学習と役に立たない学習をはっきりと区別し、ワークシートに書き記していた。役に立たないと感じる教科(国語、算数の面積、書写、理科、家庭)については、「私には必要がないし、日頃使わない。それに、専門的な事ばかりだから生活

に必要なさそうに見える」とワークシートに書き記していた。

一方、役に立つ教科(音楽・道徳・外国語・体育・総合的な学習の時間・社会)に関しては、「将来の夢に直結するし、コミュニケーション力が身につくから」という理由で必要な学習だと考えていた。

クラスの全体交流では、「全ての学習に意味があり大切だ」という意見が出た。「学ぶことで、自分が進化したり人の役に立ったりできる」という意見や「人生を楽しむことができるようになる」という意見も出た。

表3 「勉強はなぜするのか」ふり返り

A児 ふり返り

始め勉強については嫌いだし、必要ないと思っていたけど、自分の夢に関係なく生活に大事な授業がたくさんありました。だから、ひとつひとつしっかり勉強したいです。この授業で印象に残ったのは、「すべて大切」といった人の意見です。大人や人に言われたことがすべてではないけど、やっぱり大事なんだと思いました。

(考察) A児は自分の考えをしっかりと持っている児童であるが、物事に対し、自分中心に偏った見方をしてしまう面がある。交流の後のふり返りを見ると、自分の考えを見つめなおし、新たな視点で勉強について考えることができている様子が見られ、様々な意見や考えを交流することがA児自身の学びにつながっていくと感じた。

(4) 第1回個人面談(5月)

個々の児童が学校生活で何を感じ、何を悩んでどのような思いを持っているのかを知り、個々の児童の支援の妥当性を見極めるために個人面談を行った。

A児に対し「自分自身は好きですか?」という問いをすると、「あまり好きではない」という返事が返ってきた。理由を聞くと「性格が悪いから」「みんなと同じ趣味ではない」「クラスに分かり合えない人がいる」などと否定的な言葉が多く出てきた。みんなと違う自分を否定的にとらえているように思われた。

さらに、トラブルになる原因は何かを聞いてみる

と「自分の口が悪い」「後先考えず自分の思いで話してしまう」「些細なことに過剰に反応してしまう自分がある」と理由を話してくれた。

6年生はうまくいきそうかという問いに対しては「10%だけはうまくいきそうだ」と話してくれた。そのような話の中、「自分の心のコントロールがうまくいけば今より良くなると思う」という内容のことも話してくれた。

「勉強は大切ですか」という問いに対しては、「勉強は自分でできるけれど、学校は人間関係が大変」と心の内を話してくれた。あわせて、「どんな人になりたいですか?」と聞くと、「寂しいことがあっても一人で解決していける人になりたい」と話す一方、「喜怒哀楽が激しいから場面によって自分を抑えられる人になりたい」「人を思いやれる人になりたい」と自分の理想像を話してくれた。また、対人面とは別の視点で「誰にも負けないことを作りたい」「夢はダンスを考える人」と話してくれたことは印象的だった。

(考察) 面談から、A児の悩みは人間関係がうまくいかないことが、大部分をしめることがわかった。良好な人間関係を築き上げるために、自分自身を冷静に受けとめ、どのように対処したらいいかを考える様子が伝わってきた。しかし、人間関係で自分の思いを押し殺したり波風を立てないようにしたりするために神経をすりへらしている様子が見えたと感じた。

(5) 連合運動会(5月)

市の6年生が集い、100m・800mリレーの目標記録を目指す陸上大会が毎年開かれる。リレーに関しては、メンバーの体調不良も重なり、十分な練習ができず本番を迎えることとなった。自己ベストを目指し挑んだ大会後のA児のふり返りを記す。

表4 連合運動会

A児ふり返り

私が心に残ったのはリレーです。理由は、全然4人がそろわなくて練習ができなかったからです。私は友達とバトンがうまく渡せるか不安で、すご

く緊張したけど、みんなのおかげで3位になれたし、心配していたタイムも目標を達成できてとてもうれしかったです。応援してくれた人と、リレーの仲間にとっても感謝しています。

(考察) A児は、ストイックに自分を高め、記録に挑戦する児童である。しかし今回のふり返りで初めて、友達への感謝の気持ちをつづることができた。文面から仲間の励ましや応援がA児の心の変化を生んだのだとわかる。リレーのような、一人では成し遂げられないことに対して「感謝」という大きな心の変容が見られた。

(6) 道徳「山中伸弥先生の快拳」A-7 個性の伸長(5月)

医者になった山中伸弥先生は、手術をすると通常の手術の3倍もの時間がかかってしまい、ジャマナカと同僚に言われ落胆してしまう。しかし、医者をあきらめることなく山中先生は自分の長所を生かし、研究医の道を目指す。「個性を生かす」とは何かを考えた。

表5 道徳「山中伸弥先生の快拳」

A児ふり返り

山中先生はなぜ、あんなに苦しい経験をしたのにノーベル賞を取ってたくさんの人に尊敬されているか最初は不思議だったけど、自分のよいところを伸ばして悪いところを改善している山中先生はすごいと思いました。もし、自分がつらいことがあったらきっと今までは立ち直れなかったと思うけど、これからは自分も山中先生みたいに目標を持って頑張りたいです。

個性とはその人が持つよさである。個性の伸長を価値項目として行った道徳の時間と合わせ、個々の児童のよさも伝え合った。

A児に贈られたメッセージには「足が速いし、早く字を書いているのに字がきれい」「下級生にやさしいのと運動が上手なのがすごい」「積極的にいろいろなことに取り組んでいるし、また、責任感があるのでとてもすごい」という内容が書かれていた。

(考察) 自分の良さを人前で話すことはなかなか勇気がある。しかし、友達からはっきりと言われるとう

れしいに違いない。A 児はうれしそうな表情を浮かべメッセージを読んでいた。

(7) みどりの生活体験(合宿) 6月22日23日

学校から学びの場を野外に移し、自然体験活動を行った。自然に親しむこと、協力や助け合いなどを大切に登山・イワナつかみ・カレーライスづくりなどの自然体験を行った。日頃経験したことのない活動も多くあり、子ども達の戸惑いも見られたが、自分たちで考え行動する姿を見ることができた。

表6「緑の生活体験ふり返り」

緑の生活体験(A 児作文抜粋)

私は、下山が心に残りました。理由は、初めての山登りで雨も降っていてすごく怖かったからです。でもそんな時に友達が声をかけてくれたり、手を握ってくれたりして、私はとっても嬉しかったです。だから、私もイワナつかみの時に、こわがっていた子に代わりにさばいてあげました。そしたら、みんなが笑って「ありがとう」と言ってくれて幸せな気持ちになりました。

自分の思ったことや考えたことだけでなく、友達のいい所見つけも合わせて行い、互いに伝え合う活動も行った。

表7「緑の生活体験友達へのメッセージ」

A 児から〇〇さんへ

登山の時に先頭で危ない場所を教えてくれたりこわがっている私にやり方を教えてくれたりしてすごく助かりました。自分が転んだら「私が転んだところすべるよ」といってみんなが転ばないように教えてくれたから、大きなけがをした人が一人もいませんでした。そしてみんなのことも笑顔にしてくれてありがとう。

(考察) A 児は大自然の中での活動は初めてで、登山やイワナつかみなどの経験はあまりなく、様々な活動の中で友達に支えられたり、助けてもらったりすることが多かった。友達のあたたかさに触れ、仲間への感謝の言葉や幸せになるという満足感に満ちた言葉を書き記していたことは大きな変化である。また、自分が友達への気配りをする事で喜んでもら

える体験を通して幸せになったという記述があり、心の交流がA 児を大きく変化させていることがうかがえた。人とかかわることの心地よさを味わい始めることができた体験活動であったと感じる。

(8) 2回目いいところみつけ(9月)

帰りの会でいいところメッセージの内容を記す。

表8「いいところ見つけ」

友達からA 児へのメッセージ

- ・代表委員会でしっかりきれいな字で黒板に字を書いていていいと思いました。
- ・友達と協力してダンスの曲を考えていた。
- ・よく手を挙げていていいと思います。
- ・元気でいいと思います。
- ・最後まであきらめない。
- ・バトン練習をいっぱいしていいと思います。
- ・リレーの時一生懸命走っていた。
- ・自分の休み時間をつぶしてまで運動会の曲を考えていたのがすごいと思います。
- ・いつも自分の意見をしっかりとち、それを人に伝えているのがすごいと思います。

(考察) 子ども同士でのいい所見つけは、担任が見取っているよりも、正確であることがわかった。また、コメントも温かく、コメントをもらった本人も嬉しそうだった。アンケートをとった9月は運動会シーズンということもあり、A 児は練習から本番まで友達と協力し合ったり励まし合ったりしながらダンスやリレー、応援合戦に取り組んでいた。仲間の励ましがA 児に意欲をあたえたといっている。

(9) 運動会 「一人一人が輝く場」

小学校生活最後の運動会ということもあり、「一人一人が輝く場」を設定し取り組んだ。場の設定としては、開閉会式司会、競技場の注意、騎馬戦リーダー、リレーリーダー、団長、副団長などの係を決め、6年生23人全員が一人一人、マイクをもって全校や来賓、保護者の前で自分の思いを伝えながら役目を果たすという取り組みを行った。

また、「子どもたちのやってみたい」に寄り添い「[㊤]プロジェクトダンス～やってみよう～」というプロ

ジェクトを立ち上げた。ダンスの得意なA児を中心にダンスを作り上げた。

表8 運動会作文(A児作文)

「感動した運動会。」(A児作文抜粋)

9月28日に私にとって最後の運動会が行われました。天気は曇りで雨が降るか心配だったけど、無事にすべてのプログラムを終えることができました。

私が一番心に残っているのはリレーです。私はリレーのリーダーとしてみんなとリレーを成功させたいと思っていました。でも、練習ではいつも三位で一度も二位以上になったことがありませんでした。だから私は最初どうせ無理だとあきらめていました。でも、みんなが一生懸命練習している姿を見て「とにかく頑張らなくちゃ。」と思いました。リレーの結果は3位だったけどとっても良いリレーになりました。

⑩プロジェクトが心に残りました。特に友達が休み時間や放課後に一緒にダンスを考えてくれてとっても嬉しかったです。それにクラスの〇〇さんがとっても楽しそうに踊っているのが本当にすごいと思いました。ダンスが、間に合うか不安だったけど、みんなのおかげで成功できたと思います。

応援合戦では湖北小学校のみんなの団結力が感じられ本当にすごいと思いました。最初は全くまとまりのない応援で並ばせるのにも時間がかかっていたけど、本番では、自分たちで並んでかんかくを明けて並んでいました。お母さんに「すごかったね。応援。」と言われてとてもうれしかったです。

あきらめていた優勝ができてよかったです。ホッとしました。優勝できたのはみんなのおかげだと思います。本当に感謝しています。この運動会でより強めた6年生の絆もこれからも大切にしたい最高の残りの半年を過ごしたいと思いました。

友達コメント

- ・いい文章感動。
- ・これからもみんなと協力しあい頑張ろうね。
- ・リレーリーダーとして頑張っていていいと思います

した。

校長先生コメント

⑩プロジェクト中心になってやってくれたんだね。ありがとう。おかげで素晴らしい演技になり、思わず涙が出ました。あなたの力は素晴らしいです。

担任コメント

素敵な仲間とともに運動会を楽しめて幸せだったね。ダンス計画は初めからうまくいって思っていましたよ。だってあなたはダンスが大好きなのだから・・・ありがとう。

(考察) A児が運動会のリレーや応援合戦⑩プロジェクトを通し、6年生の仲間と信頼関係を強めていった様子が文面からよく分かった。自分一人で頑張るのではなく、友達に支えられたり、認められたりすることで目標を成し遂げていくことの大切さに気づいていったのだと思う。友達や先生から励ましや賞賛の言葉もらった時の表情は明るかった。また、運動会後の友達とも人間関係も良好になり様々なことに意欲的な姿が現れるようになった。

(10) 第2回アンケート(9月)

1学期に取ったアンケートをもう一度とることで児童の変容を見た。

1学期には「学校に満足していない」と答えていたが「やや満足している」に変化した。また、「人に認められている」「人と協力するのは好きだ」「自分を励ましてくれる人がいる」「友達の良いところを自分に取り入れている」という項目もすべて、やや当てはまるに変化した。自分が成長したことを書いてもらうと「友達との付き合い方が変わりました」と記していた。

(考察) 1学期には様々な学習や活動で個々の考えや思いを尊重しあってきた。さらに、自分や友達の成長を共有し互いに認め合う時間も取ってきた。そのことがA児に変化をもたらしたと考える。

(11) 成長や頑張りを自画像に描く(10月)

自己を見つめ、4月からの頑張りと自分が成長できたことや感じたことを絵に表す授業を行った。絵には今までの成功経験や周りからの励まし、将来の夢、悩みなど素直に自分を描いた。「未来に向けてどんな自分でありたいか」を絵に合わせて文章化する

ことにも取り組んだ。

自画像を描くにあたっては、ゴッホの「タンギー爺さん」をモデルとして描いた。

また、自画像の絵を表現する前にゲストティチャーとして画家の天下百華先生をお呼びし、名画鑑賞を含め、表現には様々な形があってよいことや、自分の個性や思いが湧き出てくる表現が素晴らしいことを学ぶ授業を行った。線や色・顔の表情などを使って抽象的に児童の思いを表すことで、絵の「上手」「下手」を越えた自分なりの表現を学んだ。子どもたちは「今までの図工の授業の中で一番楽しかった」「自由にかけて面白かった」と感想を述べていた。

表9 「自画像」についての説明作文

「宝物」(A 児作文抜粋)

図工の授業で自画像の絵を描きました。周りには、今の自分を描きました。4月からの自分をふり返って一生懸命に書きました。

私が6年生になったばかりの時は学校や習い事のサッカーが大嫌いでした。サッカーは週に1回ぐらいしか練習にもいかなかったし、学校も何度も休みたいと思っていました。私がサッカーを大好きになったきっかけは、私の初ゴールの日でした。この日はリーグ戦で同じ市のサッカーチームと戦った日でした。ゴールを決めた瞬間私は「楽しい。もっとチームに役立つ存在になりたい」と思いました。私はこの日、サッカーの楽しさや努力することの大切さを学びました。……

学校で私が変わったきっかけは、連合運動会です。私は、連合運動会で3つの競技に出場しました。リレーと100mと800m走です。私はこの大会で必ず、全ての目標記録を突破するぞと思い毎日練習してきました。スタートの5秒前ぐらいに湖北小のテントから大きな応援が聞こえてきました。うれしくて一生懸命頑張りました。私も出番じゃないときに一生けん命応援しました。この日、私はみんなと協力することの楽しさや自分は一人じゃないことを学びました。そして、友達がいることをとっても幸せなんだと感じました。この2つだけでなくたくさんの方が4月からありました。この作文を書きながら、私は4月に比べ自分

がポジティブになっていることに気が付きました。それでも私は、まだ提出物を忘れてたり、ケンカをよくしたりします。だからまだ、成長していきたいと思いました。この1年間で学んだことを活かし、これからも楽しく毎日を過ごそうと思いました。そして、私は、これからも一生懸命サッカーを頑張ってどんどん上手になりたいです。

担任のメッセージ

4月より今の方がずっと笑顔でずっと素敵ですよ。友達に囲まれ、一人じゃないと思える日々が続いたからでしょうね。サッカーや学校で友達の支えにたくさん助けられているのですね。でも、それはAさんが変わったからからではないかな？それは何かな？私は、人を許したり認めたり感謝したりしているからのような気がします。みんなはそんなAさんを認めているのでしょうね。笑顔のAさんや一生懸命のAさんは人に力を与えていると思いますよ。

(考察) 画像を描く中で、自分が4月から今まで頑張ってきたことを素直に絵や作文に書き表している姿を見て、自分の思い表現することの意味を感じた。絵を説明する文章の中に、「自分は一人じゃないことを学びました。そして、友達がいることをとっても幸せなんだと感じました。この1年間で学んだことを活かし、これからも楽しく毎日を過ごそうと思いました。」という文があった。自分の歩みを一つ一つ丁寧に思い返し絵や文章で表し意味付けすることは、児童が新たな一歩を踏み出す気持ちづくりに大変有意義であると感じた。また、今回の授業では、友達との交流も合わせて行った。クラスの一人一人の児童が友達の絵や文章を見て、友達を認めたたえ合う姿が見られたことも成果だと感じた。

A児は少し照れた様子で友達や担任のメッセージを読んでいた。このような交流をしたことで、A児は、以前より、授業や休み時間に自分の思いを素直に言葉にすることが多くなっていった。

(12) 個人面談10月

2回目の個人懇談では1回目との変容を見取った。質問は少し変えた部分はあったが、本人の学校での満足感を中心に理由を含め共感的理解のもとA児と

面談した。

「学校は楽しいですか？」という問いに対し、「100%のうち90%楽しい」と笑顔で答えてくれた。マラソン大会、連合運動会などで結果が出せていることを理由に挙げていた。「6年生になって変わったこと」としては、「クラスメイトと仲良くなった」ことを挙げ、「心を開いて冗談も言い合えるようになったことが何よりうれしい」と話してくれた。また、勉強や運動ができるようになったと振り返る場面もあった。

「自分のことは好きですか？」という問いに対しては、「スポーツで結果を出している自分は好きだけど、提出物が出せない自分や人に合わせることも少し苦手な自分はあまり好きではない」と素直に答えてくれた。「卒業までにどんな自分になりたいか」という問いに対しては、「友達に合わせて行動できるようになりたい」と話してくれた。「大事な時は自分を出していくことは大切だけど、友達と合わせることで友達と仲良くなれるし、後々助けてもらえる」という内容の話もしてくれた。

(考察) 1学期の個人面談とは大きな差であった。理由として、A児の話から2つのことが考えられた。まず、様々な行事や学習で自分の努力が実り成績を出せている事。そして、友達とかかわりの中で認めってもらったり、支えてもらったりして自分が成長できていることを実感できるようになったことが大きな要因であると考え。最初の面談で「寂しいことがあっても一人で解決していける人になりたい」と話していたA児が、2つの要因から自らの心に変化を起し、様々な活動に対し、前向きな気持ちを持つようになったのだと考える。

2. B児の変容とその考察

(1) 4月アンケート

B児は、「自分には夢や希望がある」「学校生活に満足している」「新しいことにチャレンジするのは好きだ」「自分がどんな人か考えたことがある」「自分は人から認められている」という項目すべてに「あてはまらない」と回答した。唯一「最後まであきらめずに一つのことをやり遂げたことがある」だけ肯定的に「あてはまる」と答えていた。消極的な回答には理由があると思い、面談で理由を聞くと「勉強

が面倒で嫌だし、新しいことにチャレンジした時、自分が下手だったら嫌だし、かっこ悪いところを見せたくない。」ということをもB児は話してくれた。

(考察) 学校での学習や活動に対し、あまり興味がなく、向上心をもって学校生活を送っていかうという気持ちがあまりないことがわかった。また、かっこ悪いところや、できない自分を人に見られたくないという気持ちがB児の意欲的な気持ちを後退させている気がした。

(2) 学級活動「勉強はなぜするのか。(4月)

授業の導入では、勉強の大切さについて考えた。B児は、「今学んでいる勉強は夢に直結しないし、役に立つものと役に立たないものがある。」と述べていた。各教科に対しても「役に立つ」、「役に立たない」など理由をつけて自分の基準で勉強について記していた。

しかし、友達との交流後自分の書いたものをすべて消し、「全部役立にたつ」と記した。そして、みんなと話し合った「勉強するとかっこよくなる」「進化する」「人の役に立つ」「人生を楽しむことができる」「幸せにできる」ということをワークシートに書き記していた。

表 10 学級活動「勉強はなぜするのか」

B児ふり返り

始め勉強についてやらなくていいと思っていたけど、勉強は大人になって使うことがわかりました。友達の「勉強はすべて必要」というところが印象に残りました。今後は先生の話をしっかり聞きたいです。

(考察) 自分基準で勉強についての思いを記していたが、友達との交流を通し、自分の意見をすべて消し、友達からもらった新たな考えを書き記す姿を見て、B児が「クラスの友達の考えを自分の中に取り入れていかう」という気持ちが出てきたことがうかがえた。この授業後、ノートをとったり、真剣に話を聞いたりする姿が少しずつ見られるようになった。

(3) 第1回個人面談(5月)

個人面談で「自分自身は好きですか？」という問いに対し、「きらい」という一言を發した。理由を聞くと「さあ、なんとなく。べつに好きになりたくな

いし、嫌いでいい」という受け答えだった。続けて「自分が全体的に嫌いだし、勉強が苦手な自分や人の話を聞けない自分がいるから」と話してくれた。さらに、「いろいろと面倒くさいし、どうせついていけないから」とも語ってくれた。「学校は大切だと思うか」という問いに対しては、「社会で役立つから大切ではあると思うが面倒くさい」と回答した。「夢はバスケット選手で、あこがれの人はアメリカのステフィン・カリーだ」と話してくれた。その後、「面倒くさいけど、もっと話を聞ける人になりたい」と話してくれた。

理想に近づけそうかという問いに対しては「そうは思わない」と返事をしてくれた。

(考察) 面談を通して、前向きな言葉はあまり聞くことができなかった。学校生活に対しての向上心や意欲といったものをどのようにB児の中に目覚めさせていったらいいのかを考える必要があると感じた。面談の中で唯一話を聞ける人になりたいという願いを持ってくれたことを今後の支援に生かしていきたいと思った。

(4) 道徳「山中伸弥先生の快挙」A-7 個性の伸長

6月に行った道徳に時間のB児のふり返りは以下のようなものである。

表 11 道徳「山中伸弥先生の快挙」

B児のふり返り

あきらめず努力をした先に自分のできることがあると知りました。夢はかなわなくても自分に合う仕事はちゃんとあると知りました。僕はまず、目標を立ててそれを目指していきたいです。

(考察) 5月の面談では、「面倒くさい」や「自分のことが嫌い」というようなネガティブな言葉が多く聞かれたが、今回の道徳の授業では、目標を立てて頑張りたいという言葉を書き記した。B児は自分自身の中で何を目標に頑張っていけばいいのかを明確につかむことができないうために、ネガティブな感情をもってしまっているのではないかと感じた。B児には何か本気になる目標を持つことが必要であると感じた。

(5) いい所見つけ(5月9日)

困難なことに出会っても自分は対処できると考え

られるようになる自己効力感を日々持ち合わせていくためには自分自身の長所を知る必要がある。しかし、自分自身の長所を見つけ、胸を張って言える児童は多くない。そこで、クラスでいい所見つけを行った。B児に贈られたメッセージを記す。

表 12 いいところ見つけ(5月)

(5月) 道徳の時間

- ・スポーツの時に一生懸命やっていたかっこいいと思いました。
- ・運動がすごく上手。
- ・連合運動会で頑張っていた。

表 13 いいところ見つけ(9月)

(9月) 帰りの会でのメッセージ交換

- ・総合の時間の司会がとても上手でした。
- ・頑張っていましたね。
- ・いやでもやり遂げるところがすごい。
- ・慣れていない司会だったと思うけど一生懸命していてすごい。

(考察) メッセージを受け取ると、本人の表情が柔らかくなり、照れた様子も見られた。自分のことを褒めてもらったり励ましてもらったりすることは、自分の自信へとつながっていく様子が見て取れた。このような活動を繰り返すことで、児童の笑顔が増えていった。

(6) 4・5・6月のふり返り今の自分を見つめる

7月に1学期3ヶ月間の自分を振り返るアンケートをした。その後、自己分析を行い、今後になりたい自分になるために何をしなくてはいけないかを考える時間をとった。

アンケートからB児は、「宿題を提出できていないし、家庭学習頑張り週間もしっかり取り組んでいない」と自己分析していた。自分の現状を見つめなおし、「友達と遊んでから勉強ができるようになりたい」と反省していた。友達からのアドバイスも含め、「ゲームを親にかくしてもらおう」「遊びに行く前に勉強をする」「学校に残って勉強する」などの対策を立てていた。

(考察) 自分を見つめ、どのような取り組みをすれば理想の自分になっていくかを自分で考える経験は

B 児にとってはよい経験であったと思う。友達からのアドバイスを参考に、自分の目標に向かうための工夫を考えだすことも、B 児にとってはよい視点をもたらえるきっかけになったと思う。夏休み明けの宿題の提出率はとてもよかった。

(7) なりたい自分へ(総合)「僕わたしの未来」(7月)

自分の中にある宝物(よき)を探し「自分らしさを生かした職業調べ。」を行った。

B 児の好きな事・好きなものは、バスケ・ゲーム・サッカー・テレビであり、得意な事は、ボール投げであると書き記した。

友達からは、スポーツの時に一生懸命であることや、運動神経がよい事がよきだとほめてもらっていた。あこがれの人がステフィン・カリー・八村塁選手で、就きたい仕事の種類は NBA 選手であることを書き記していた。授業後に、「もともとは夢がなかったけど授業をして夢ができました。外国の有名人選手をバスケでこえたいです」とふり返りを書いていた。

(考察) B 児にとっては、自分のよきや興味のあることから、自分の夢について考えたことはとても新鮮であったようだ。友達から良さを伝えてもらったことと、自分の好きとが一致したことが夢について考えるきっかけを与えたのだと思われる。運動が好きなこともあり休み時間は、バスケットなどでいつも体を動かす姿が見られた。

(8) 運動会(一人一人が輝く場・プロジェクト)(9月)

9月の運動会のB児のふり返りは以下のようなものである。

表 14 運動会作文

「最後の運動会最高」(B 児作文抜粋)

令和元年 9 月 28 日僕たちは小学校生活最後の運動会をしました。この運動会で一番心に残ったのは、6 年生全員で踊ったダンスです。なぜかという、みんなで本番前にたくさん練習して、本番は全員が楽しく踊ってみんなが完璧に踊っていたからです。ぼくが友達で頑張っていたと思うのは、各団の団長です。なぜかという 1 から 5 年生全員を並ばせたり指示したりしていたから

です。もう一人は〇〇さんです。なぜかというリレーの時に転んでも立ち上がって走ったし、司会としてもちゃんと前に出て話していたからです。

クラスみんなが頑張ったことは、一人一人が前に出てちゃんと大声で恥ずかしがらずしゃべっていたことだと思います。

学校全員で頑張っていたのは運動会すべての競技だと思います。なぜかというみんな一生懸命になって取り組み、6 年生や団長の言うことを聞いてちゃんとできていたからです。

これからいかしていききたいことは何事も挑戦し、恥ずかしがらずにしていきたいことと低学年の手本となりしっかりと高学年らしくすることです。団結や協力や責任の大切さを学びました。最後の運動会で優勝できてよかったし、全員で運動会を楽しめてよかったです。

友達コメント

- ・私も運動会を楽しめました。
- ・ぼくも〇〇さんがすごいと思いました。

校長先生コメント

あなたの応援の時の大きな声や結果発表の堂々とした姿などあなたのすごさを感じた運動会でした。すごかったよ。

担任コメント

運動会を楽しむことができたのはきっと本気が出せたからだね。これから恥ずかしがらずなんでも挑戦してみてください。結果発表ご苦労様。

(考察) これからいかしていききたいことの中に、挑戦すること、恥ずかしがらないこと、低学年の手本になることの 3 つを書いたことから、B 児の考え方に大きな変化が見られた。今まで人前に出て何かを進んでするという姿をあまり見かけなかったからである。運動会后、自ら手を挙げて児童会を動かす企画委員に立候補したことは大きな変化であった。手を挙げた理由を聞くと、「やってもいいかなと思った」ということを話してくれた。少し恥ずかしそうではあったが B 児の前向きな気持ちを感じた。委員会では、自分なりに考え、役割を果たそうとする姿が見られるようになった。

(9) 第2回アンケート(9月)

「自分には夢や希望がある」「学校生活の満足している」「新しいことにチャレンジするのは好きだ」「自分がどんな人か考えたことがある」「自分は人から認められている」「友達の良いところを自分に取り入れている。という項目すべてで自己評価が2段階上がった。

(考察) 1学期のアンケートで当てはまらないと答えた項目のすべてにおいて評価が上がったのは、本人自身が自己を見つめ改善しようと努力をしたり、互いのいい所見つけをしたりするような小さな取り組みに対し、自分なりにしっかり向き合ってきたからであると考えます。また、各行事や学習を通して何が正しいことなのか、何が価値あるものなのかの基準を自分の中で確立してきたことも、アンケート結果に大きくかかわっていると感じた。B 児のがんばりや気づきが本人の喜びにつながったことを感じる結果だと考える。

(10) 成長や頑張りを自画像に描く。(10月)

B 児の自画像についての作文は以下のようなものである。

表 15 自画像作文

「自分を変えた出来事」(B 児作文抜粋)

図工で自画像を描きました。まわりに今の自分を描きました。4月からの自分をふり返って自分の成長を描きました。

僕は夢がなかった時、先生との面談で夢を作りました。そのことで気づいたことは夢の大切さと、いつも夢を思い浮かべて夢を叶えるために努力を積み重ねて細かいことをやっていくことだと思いました。

もう一つ変わったと思うことは、話を聞けるようになったことです。そのことで気づいたことは、話を聞いていけば問題を簡単に解けるし、注意されることが少なくなっていくと気づきました。僕は運動会の練習と本番が成長につながったと思います。なぜかという、人の前にでて恥ずかしがらずに言えばすっきりとしたし、前の自分と少しずつ変わっていると思えました。4月の自分は集中できなかったけど、どんどん集中する時

間を増やして人の話を聞く事を大切にしていきたいと思いました。なぜかという、いつもはあまり人の話を聞いていなかったからです。

僕になりたい自分は、人の話を聞き、全てに挑戦でき、集中しなくてはいけないときは絶対気を抜かない自分だと思っています。

友達コメント

- ・集中することはとても大変だけど集中している B 君はとても強い力をもっているから頑張っている。
- ・夢に向かって頑張ってください。

担任コメント

4月から大きく成長しましたね。バスケが好き！運動が好きだから「バスケット選手になりたい。」素敵ですね。本物のバスケ選手になるために頑張れ。あなたは見ていてとってもセンスがいいと思いますよ。ポイントを押さえて学習することもできているから、これからもっと伸びていくと思います。「集中力と面倒くさがらないこと」「丁寧にすること」それがカギになる気がします。

(考察) 自画像を描き、周りに成長を書き記す活動を通して、自分の成長を見つめなおす B 児がいた。日々の成長を自分の中で意味付けすることで、本人自身が自己を見つめることができた意味はとても大きかった。なんとなく頑張った、なんとなく楽しかったではなく、自己の絵や作文に自分の思いを表現することで自分自身に対する肯定的な考えが生まれ、今後こんな自分を目指したいという希望にもつながっていくことがわかった。

友達との交流の中でも、励ましの言葉や良さを伝え合う活動をした。その活動は、児童にとって、「次も頑張ろう」「今度も前向きにやってみよう」という自己効力感を生むことが分かった。4月に比べ、宿題の提出率も100%になりつつある。学習への前向きな姿も見られるようになった。また、市のサッカー大会に向け、仲間と共に進んで練習を重ねる姿も見られた。サッカー大会では見事優勝することができ、自分に自信がついたようだった。

(11) 第2回個人面談(10月)

6年生になって変わったことは何ですか。」という問いに対し、「人の話を聞けるようになったことと、

手遊びをしなくなったこと」を挙げてくれた。「始めは、注意されたくなかったから気を付けていたけど、2つのことを頑張ったらテストの点数が上がったし、効果があることがわかった。いいことだと分かったので、今は集中するためにやらない」と話してくれた。

「自分のことは好きですか」という問いに対しては50%好きで50%嫌いという回答だった。4月は、自分のことが嫌いであると即答していたのを見ると、大きな変化があったと感じる。好きになった理由は「手遊びをしなくなったから。そして、なんとなくだけど学校のために働こうと思う自分がある」と語ってくれた。その理由は、「運動会で、自分なりに納得する仕事ができただけ大きい」と話してくれた。その後、「まだ人の話を聞けないし、間違っていることをする自分がまだいて嫌だ」ということも語ってくれた。その話を受け、これから5ヶ月どう過ごしていくかと質問すると、「いつも面倒くさくて逃げる自分があるからいろんなことに逃げないで過ごしていきたい」と語ってくれた。

(考察) 本人は、十分自分のことがわかってきていることが面談で分かった。しかし、弱い自分と頑張ろうという両方の自分がいて、思うようにいかない部分もあることも分かった。しかし、4月は自分のことを多く語らなかったが、2回目の面談は明るい表情で、自分の成長や今後になりたい自分を語ってくれた。自分を見つめる力が付いてきたことを感じた面談だった。今後も、前向きな気持ちが継続できるような支援を行っていきたい。

V アンケートから見るクラスの変容

2人の抽出児を中心に変容を見てきたが、クラスの子どもも同様の内容で活動してきた。個の願いを真摯に受け止め、支援実践する活動が子ども心にどんな変化をもたらしたかをアンケート結果から考察する。

4月当初の子どもたちは、学校に対し肯定的なイメージを持つ割合が少なかった。しかし、9月になると、学校生活に対して「満足である」と答える子どもが増えてきた。また、「友達のよい所を取り入れ

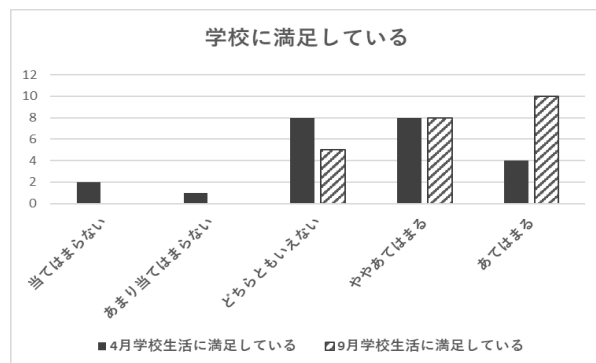


図2 「学校に満足している」クラスアンケートの変化

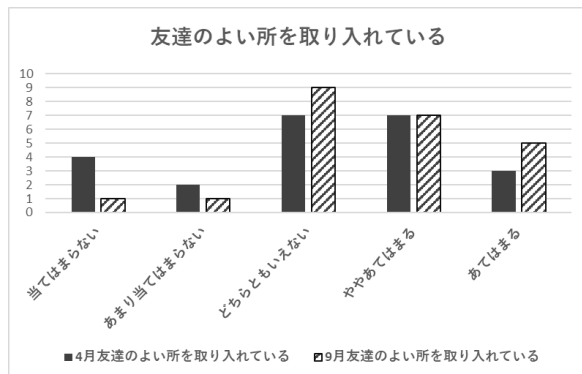


図3 「友達のよい所を取り入れている」クラスアンケートの変化

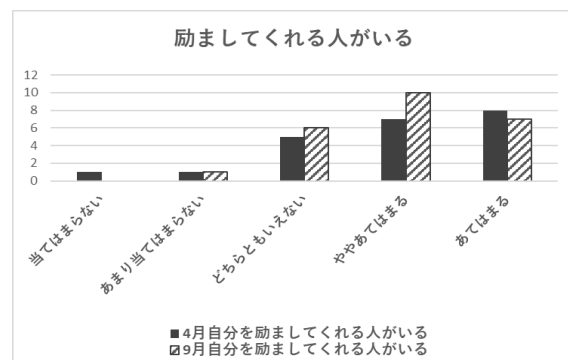


図4 「励ましてくれる人がいる」クラスアンケートの変化

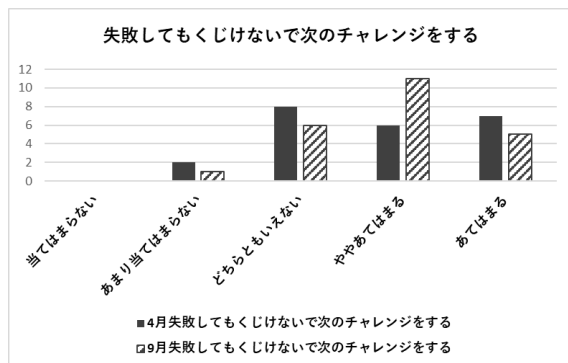


図5 「失敗してもくじけないで次のチャレンジをする」クラスアンケートの変化

る」「互いに励まし合う」という子どもの割合も増えてきた。さらに、「失敗してもくじけずにチャレンジする」という子どもも増えた。

(考察) 4月から子ども一人一人に対して、担任や友

達が真っすぐにメッセージを書いたり、意見や感想を言い合ったり、友達の思いを受け止めたりする時間を多くとってきた。様々な教育活動の中で交流を重ね、個々の子どもの思いをくんできた結果が集団への高まりにつながったといえる。4月からの個への取り組みは、集団の向上心にもつながることがグラフから読み取れる。

VI 全体的考察

自分自身が困難な状況であっても、自分に対処できるという確信や自信といったイメージ(自己効力感)を持つには、「1. 制御体験(成功経験) 2. 代理体験(モデリング) 3. 「できる・大丈夫」などの周りの社会的説得である」というアルバート・バンデューラの考えを参考に、自己アセスメント・個人面談を軸に様々な実践を行ってきた。

自己効力感をもつには、一つ一つを別々に考えるのではなく、一連の流れを踏んでいくことが大切であると考えられた。本研究での一連の流れは「1. 自己を知る 2. 個人面談で個の考えや悩みを教師が受け止め、時を見定め支援する 3. 挑戦していくうえでモデルとなるものを示す(道徳・互いのアドバイスなど) 4. なりたい自分に向かって挑戦していく 5. 自分の行動や思いを文章や絵に表現することを通し、自己評価をする 6. 互いを認め励まし合う」である。本研究では、これを繰り返し行うことで個々の自己効力感を高めてきた。

個々が抱える考えや悩みを共感的に理解する個人面談は、子どもが自分自身を冷静に見つめる時間となり、これから自分はどうしていきたいのかを考える有意義な時間となった。面談では、子どもの思いや考えに寄り添い、子どもが何を考え、何を感じているのかを担任が理解することを大切にしたい。なぜなら、子どもの成長に大きく関わる大切な支援が見えてくるからである。個々の子どもの望みや悩み、困難に感じることは様々であった。こちらが思いもよらなかったことを語ってくれたり、本心を素直に話し始めたりすることもあった。今回の報告ではA児とB児の面談を取り上げ報告したが、同様の実践をクラス全員の児童に行った。子どもの言葉に耳を傾けることで日々の授業、学校生活でのすべての子

どもの支援・励ましに生かすことができた。

また、この面談は子どもを理解するだけでなく子どもと子どもをつなげることにもつながった。担任が一人一人の思いを受け止め、頑張りを認めクラスに広めることで、子ども達がクラスメイト一人一人の良さを受け止め認め合うようになったからである。この面談は、クラス全体を変えることになったのは先のアンケート結果からもよくわかる。

道徳の授業では、登場人物の生き方や考え方のモデルに触れる授業を実践してきた。今まで自分が持っていた道徳的価値をより深めていくために、互いの意見や考えを交流する活動を行ってきた。そのことで新たな価値に気づき、その考えを取り入れていこうとする子どもも出てきた。このような取り組みからよい他者意識が芽生え、他者のよい所をモデルにし自分の中に取り入れようとする子どもも増えてきた。他者の頑張りがや前向きな考え、成功経験は時として自分を高めていこうという向上心になる。一つの教材から今後の生活に希望が持てるような授業に今後も取り組んでいきたいと思っている。

なりたい自分になるためには、向上心を持ち努力し続けなくてはいけない。そこで、総合的な学習の時間や行事など様々な活動の後、自己を見つめ表現する活動や互いを認め励まし合う活動も繰り返し取り入れてきた。自分自身の頑張りを自覚することや互いの励ましや認め合いは、子どもの励みになり新たな向上心を生むことがわかった。この取り組みを続けたことで子ども達は、挫折やうまくいかないことが起きても前向きにとらえるようになり、自分は乗り越えられるという自己効力感を高めていった。現在の子ども達は、一つ成功経験を積むごとに忍耐強く取り組むようになり、以前より様々なことに対し、自分から工夫を重ねるようになった。

現在、クラスには、少しぐらいの困難なことは何とか乗り越えていけるであろうという空気が漂っている。様々なことを自分で考え決めてきたことや、互いの良さを受け入れ、互いに認め合い、励まし合ってきたことで成功体験を積んできたからだと考える。

実践とは別に、学校文集の6年のテーマとして「今

年1年を漢字一文字で表すとしたら」という文章を書いた。子どもたちが選んだ漢字は「喜」「歩」「友」「成」「輝」「笑」などの前向きな言葉が多かった。クラスみんなで支え合い、挑戦してきたことを文章に表す子ども達も多く、子どもの願いをくみ、実践を重ねてきたことが子ども一人一人やクラスの向上心につながってきたのだと考える。

Ⅶ まとめ

1. 結論

本研究では、なりたい自分を明確に持ち、日々の生活の中で自ら考え決断し、よりよい行動ができるようになるための支援の在り方を探ってきた。子どもの願いや思いを真摯に受け止める個人面談と互いを認め励ましあう活動、自分や仲間の成長を絵や文章化し互いを意識させる一連の流れを繰り返すことは、子どもの自己効力感を高めていくことがわかった。

2. 今後の課題と展望

小学校6年生という発達段階で自己を見つめ、自ら判断し行動できる初歩的な力をつけることは中学校生活を豊かに送る第一歩であると考えられる。卒業まであと3か月を切った。4月から中学生になるが、今後は「どんな中学生になりたいか。」と問いかけていこうと思う。卒業に向け、希望に胸を膨らませている子どももいる反面、不安を抱えている子どももいるかもしれない。今後も子どもに寄り添い、支えるスタイルを貫きたい。そうすることで、希望をもって中学に進学できると考えるからである。

自分自身の未来に期待する子を育成するためには、現在の子どもの思いや、考えをタイムリーに知る必要があった。面談を通して、子どもの思いを知り支援に生かすことができたからこそ、学校生活への期待感が芽生えたといっている。

しかし、昨今の教育現場は時間に追われ、とかく子ども思いを前面に出した活動は取り組みにくい。今後、限られた時間の中で子どもの心の中にある思いをどのようにくんで生かしていくか、支援の在り方をさらに模索していきたい。

引用文献・参考文献

- 1) アルバート・バンデュラ著(本明寛・野口京監訳)1997 激動社会の中の自己効力. 金子書房.
- 2) 文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年度告示) 解説特別の教科道徳編. 廣済堂あかつき.
- 3) 文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年度告示) 解説総合的な学習の時間. 廣済堂あかつき.
- 4) 田村 学・黒上 晴夫 2017「深い学び」で生かす思考ツール. 小学館.
- 5) 柴田和美 2007 主体的に進路を切り開いていく力を育む道徳教育. 平成19年度指導者養成研修講座 研修報告書. 石川県教育センター.